

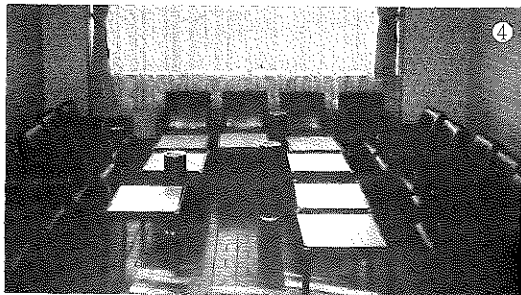
①



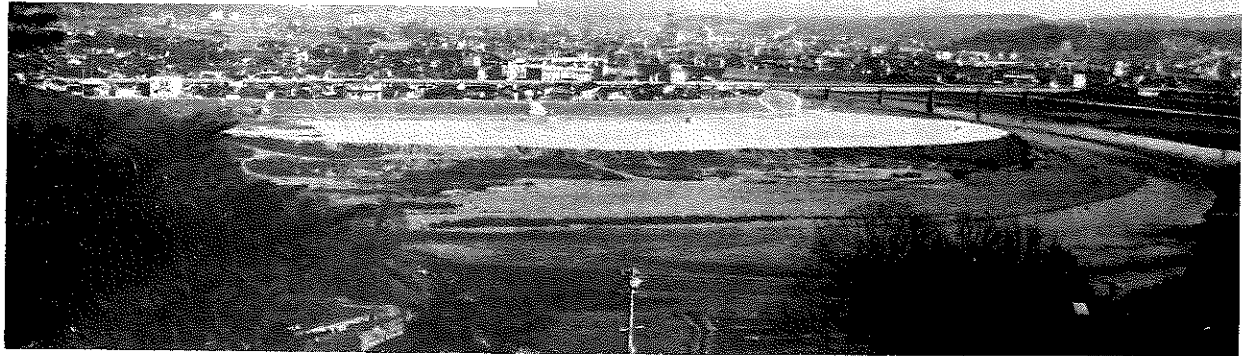
②



③



④



⑤



第17号

昭和52年11月30日

発行人

野村節也

編集人

田中恭生

印刷所

広島県双三郡吉舎町

佐々木印刷株式会社

- ①…増築部分
- ②…装いも新しい玄関
- ③…フロアーと事務室
- ④…新小会議室
- ⑤…会館から望む三次市街

増築なった医師会館

第29回

広島医学会北部支部大会

●とき/11月20日(日) ●ところ/三次市文化会館

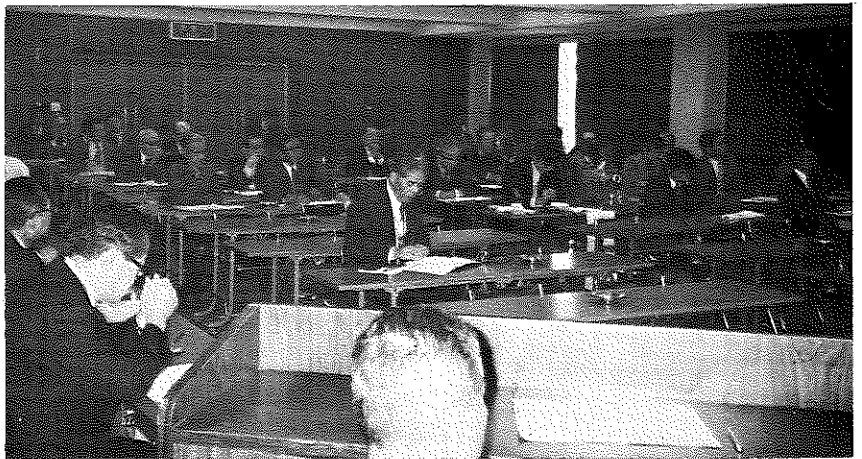
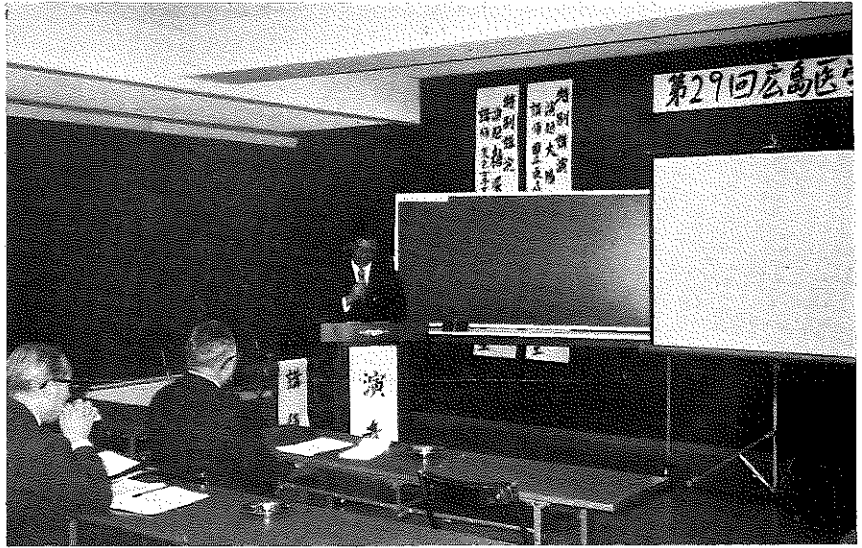
第二十九回広島医学会北部支部大会は、十一月二十日(日)三次市文化会館で開催された。当日は薄曇りの少々肌寒い日であったが、それでも開会の午前十時には約五十名の会員が参加した。双三地区医師会長、野村節也会長の開会の辞で始まり、会員の研究発表は次の六題で、演者は次の通りであった。

- 一、胆嚢の捻転症の一例
双三中央病院外科 小原俊一
- 二、胃グロームス腫瘍の一例
庄原赤十字病院外科 平田賢一
- 三、胃結核の一例
双三中央病院内科 山形幸男
- 四、家族性胃十二指腸潰瘍の一家系
厚生連吉田病院内科 満田邦枝
- 五、老年学入門
比婆医師会 林 融
- 六、ガードナー症候群の一例

双三中央病院内科 白川敏夫
 今年は研究発表が少なかったせいか、又質疑、追加討論も二、三に留り会員研究発表も予定通り午前十時五十分には終了した。
 午前十一時から特別講演として国立呉病院消化器内科部長 大森仁也先生「大腸疾患について」がであった。その要旨は三面に掲載した通りである。
 昼食後は、呉医師会長代理とし

て右正文三副会長の挨拶があり、現在の医政問題についての現況を報告され、会員諸君の一層の奮起を促され日本医師会・県医師会への引き続き強力な御支援をお願いされた。
 続いて特別講演の二題目として我が国糖尿病学会の権威である東京女子医科大学内科教授、平田幸正先生の「糖尿病について」を聴講した。私達第一線に立つ開業医にも平易に分り易く、またユーモ

アを交えての御講演は会員の日常診療に非常に役立ったことと思う。以上で第二十九回広島医学会北部支部大会の全日程を終了し、高場双三地区医師会長の閉会の辞があり、引き続き午後三時より懇親会が開催された。
 懇親会はやや参加会員数が少なくなつてはいたが、それでも和気あいあいの中に歓を尽し第三十回大会を盛大に成功させることを誓いながら散会した。



上段写真・特別講演 平田幸正先生
 中段写真・学会風景
 下段写真・会議が終つて懇親会風景

医師会だより

(昭和五十二年九月一日(昭和五十二年十一月二十五日))

9月8日
特別委員会「センター職員との懇談、センター職員共済制度の件、増築、設備の件」
出席者 野村会長、鳴戸副会長
長船、箕岡理事

9月30日
学術講演会
特別講演「狭心症とその治療」
九州大学循環器内科教授
中村正臣先生

9月9日
広島県国保連合会出張受付

10月8日
在宅当番医制事業運営費補助金交付説明会
於東医師会
鳴戸副会長、中西事務長出席

9月13日
広島県国保連合会出張受付

10月12日
当番医会議
協議事項
・鳴戸副会長より在宅当番医制事業運営費補助金交付について伝達。
在宅当番医制事業運営費明細書作製について。
二次救急は地方自治体が責任をもつよう申入れのこと
出席者 野村、鳴戸、箕岡、藤井、荒瀬(秀)、板橋、黒瀬(真)、小川(泉)、岡崎、佐藤、荒瀬(敏)、藤谷、酒井、近藤各先生

9月20日
郡・市地区医師会長会議
野村会長出席

11月11日
結核審査会
協議事項
緊急合同役員会、土地購入の件
出席者 野村会長、鳴戸、高場副会長、田中、三浦、岡崎、箕岡、湯浅各理事、荒瀬議長、吉光、大谷、岸

(1)産業医の職務
広島県医師会副会長
広島県医師会産業医部会
右近文三先生
広島労働基準局安全衛生課長
藤坂久雄先生

11月17日
結核審査会
協議事項
・前回の昭和52年度役員名簿に不備がありましたので謹んでお詫びすると共に再掲載いたします。

(2)健康診断の評価
広島公衆衛生学助教授
吉永文隆先生
東洋工業病院長
浜田 豊先生

10月13日
結核審査会
協議事項「北部医学会について」
出席者 野村会長、鳴戸、高

(3)総括並びに質疑応答
広島衛生学教授
奥田久徳先生

10月20日
理事會
協議事項「北部医学会について」
出席者 野村会長、鳴戸、高

10月25日
第17回「巴杏」編集委員会
出席者 高場副会長、田中編集委員長、箕岡、藤谷、酒井、谷岡各委員
10月27日・28日
結核審査会
11月4日
特別委員会
北部医学会要項の件
出席者 野村会長、鳴戸副会長、若本理事

11月11日
結核審査会
協議事項
緊急合同役員会、土地購入の件
出席者 野村会長、鳴戸、高場副会長、田中、三浦、岡崎、箕岡、湯浅各理事、荒瀬議長、吉光、大谷、岸

11月20日
第29回広島医学会北部支所大会
於三次文化会館
特別講演「大腸疾患について」
国立呉病院内科部長
大森仁也先生
特別講演「糖尿病について」
東京女子医科大学内科教授
平田幸正先生
11月25日
結核審査会

11月25日
結核審査会
協議事項
・前回の昭和52年度役員名簿に不備がありましたので謹んでお詫びすると共に再掲載いたします。



学会北部支所大会後の懇親パーティー風景
高場副会長カメラマンはあちこち飛び回って大奮闘

鎮痛・抗炎症剤

ハンフミン®カプセル

一般名=塩酸チノリジン (単位当り ¥28.00)

製造=吉富製薬株式会社
販売=武田薬品工業株式会社

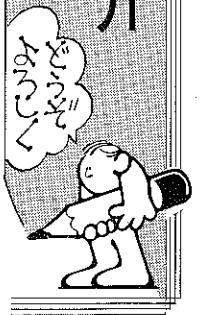
鎮痛・解熱・消炎剤

インテバンスP

《スパンスールカプセル》

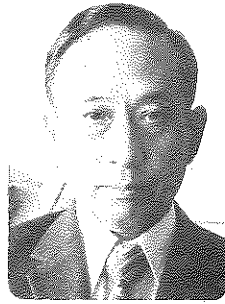
製造発売元 住友化学 医薬事業部
販売元 稲畑産業 医薬事業部

会員紹介



長岡 淳先生

大正十二年亥の年生



旧三次中学、旧松山高校、九州大医学部卒、友田外科出身、福岡市近郊の諸病院外科を遍歴、昭和二十七年帰郷し、双三中央病院に就職。今日迄二十五年に至る。三十三歳で結婚、息子二人を授かる。昨年十一月病院長を辞し、現在顧問職。これからの時代は、私の様に延々と勤続する人はいなくなると思う。

私の青春時代は苛烈な戦時下であり、多くの友を失ったが、私は医科系の為、学生動員を免かれ、結局終戦を迎え、軍隊経験はせずじまいであった。この為、人間の極限状況に於ける対応の仕方に関して、残念ながら腹の据わり方が不足しているのを感じざるを得ない。この事は、私より若い年代の人々にも、多かれ少かれ当てはまるのではなからうか。数年前の石油ショック以来、我々の心のどこ

中村知己先生

大正十二年二月十日生



双三郡布野村上布野一四八五ノ一昭和二十三年九月九大医学部卒業昭和二十八年八月君田村へ出張開業
昭和四十八年十月布野村にて父

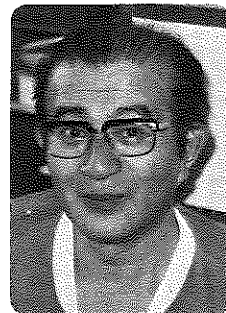
かに、日本の未来に対する不安が生じたにもかかわらず、相変わらず甘えの構造が維持され、狭い国土の中で、よそ事の様にならぬ自覚に人口は増殖し、無資源国でありながら節約とエネルギー開発のキャンペーンは起らず、マスコミに指導され公の名の下に、国の富が不相応に消耗されていくうちに、折角貰った自由を返上する日が遠からず来るのではないかと心配である。何とか仰々しい建前論者の弁舌に興奮する事なく、静かに賢者の言葉に耳を傾けられる知恵を持ちたいものです。

と共に診療に従事現在にいたる。卒業当時は父もまだ若く元気なので、免許証獲得後は病院勤務し他家の飯をくうべく、それまでの腰掛けとして布野で父の手伝いをしたが、ずるずるとそのままになり、終生田舎暮らしをする羽目となった。そのうち無医村状態となった君田村民に依頼され出張診療ついで乞われるままに、妻と長男(当時二歳)を連れて旧山本医院にて開業。昭和三十年長女誕生。それ以来いろいろ事があつたが、足かけ二十五年君田へ在住。八年前の母の死亡、本年二月の突然の父の発病。あれやこれやで現在は布野村を主として、君田へは週一回出張。

父もそうであつたが、小生も大の釣りファン。特に鯉つり。最近諸先生方の楽しまれているゴルフには全くの無縁、といつても会員証を持つてゐるばかりに、一回も使用しないのに毎年会費をとられてぼやいてはいるが。君田へ居る頃は朝食前の一〜二時間、夕食前の一時間が鯉つりの時間。つれてもつれなくても欠かした事はない。十年に一回位は二尺位のが一尾はつれるから。布野へ帰ってからは大きい川が近くにないのと、又父の病氣、或は小生の体力の衰えからか、釣に出かける機会が少なくなつた。これからは健康のためにも出来る限り早起きして釣を楽しみ、体力の衰えを防ぎ、今日のそして明日の診療に頑張りたいと思つてゐる。
家族 父 小生 妻 との三人暮し。

荒瀬敏博先生

大正十二年一月二十五日生



長男 山大医学部大学院在学中
長女 山大理学部数学科在学中

私が学校を卒業し、三次へ帰つたのが昭和二十五年です。元氣だつた父に、毎日々々、下品な言葉ですが、糞の出る程叱られながらの手伝いが始まりました。医師の事許りでなく、父の好きだつた鯉釣りも習いました。そして或る日、父の曰く、わしより大きい鯉を釣つたら嫁を貰つてやると。亦父の悪い冗談と許り思つて居ましたがそれが本当に実現したのは驚きました。怖しいと思つていた父にも、そんなユーモラスな一面もあつたのです。

あの頃は今はなき先生方も皆お元氣で、御活躍されており、私が一番若い会員でした。父逝去後、数年余りで当地に開業し、現在まで七年余大過なくやつて来られたのも、父のお陰と思つております。家族構成は、妻と、二人の女の子がおります。これから残された人生、好きな魚釣り、竿を担いで山陰地方を、馳け廻りたいと思つております。

健保適用

抗炎症・抗腫脹作用がすぐれている!

消炎酵素剤 **オプロゼSA**

- 手術後の浮腫 炎症症状の緩解
- 外傷による浮腫 炎症症状の緩解

カプセル	5mg	600, 1400カプセル	1カプセル32.20
	10mg	600, 1400カプセル	1カプセル58.20
顆粒	1g中10mg含有	500g	1g 58.20

小野薬品 大阪・道修町

新 広域合成ペニシリン

パセトシン® カプセル 細粒

「日抗基」アモキシシリン製剤

薬価 ■125mgカプセル137.40 •250mgカプセル268.00
■細粒1g 197.60

協和発酵 特許許諾 英国ビーチャム社



日本のふるさと

京都探訪記

岸田 久



年一回吉舎医会の一泊旅行は、今年も表題の京都行きとなった。去る十一月二十六日(土曜日)午後一時、小雨の降る中を新幹線三原駅に向う。二時間三十分の降り続く夕暮の中ネオンの輝く京都駅に着き、京都ホテルを今夜の宿とする。荷物もそこに夕食は懐石料理を鴨川辺りの先斗町「松友」と言う料理屋でとる。広島とは一味違う料理に先ず京都の味を堪能する。午後九時三十分土曜日の本斗町、四条通りは若い男女の人通りで一杯、その中を通り抜け京都名物年末の歌舞伎顔見世興行の始まる南座を右に見て、今回最大の目的祇園に行く。花見小路八坂町に入ると、今迄の雑踏とは別

世界の如く変わって、格子戸の小さなたたずまいのお茶屋がひっそりと並んでいる。格子戸をくぐり入ると「おいでやす」とあのやわらかい京都弁のおかみの声に迎えられ、各人おすおす座敷に上がり、狭い廊下、階段を上がり座敷に通る。座敷の次の間は舞妓の踊る座敷が続いている。早速典型的京美人山本富士子を少し太めにした美人芸者が来て盃をあげる。祇園と言う所は一見のお客さんは絶対に入れてくれない所で、田中先生の旧海軍軍医時代のクラスメートの、田代先生(京都府医大出身)の紹介で今夜は楽しむことと相なった次第である。その田代先生も同席され、三十分後に待望の「舞妓」が登場する。話に聞いたり、絵で見た通りの白い厚化粧の人間人形で、多く語らず時々お客の我々五人にかわるがわるお酌する程度、三味線を弾く芸者、お女将も同席して舞妓が祇園小唄を踊ってくれる。そして一同舞妓を囲んで記念写真を撮る。京都の夜は更けて行きあちこちのお茶屋から三味の音だけが聞こえるだけで、本当に静かな夜の街である。舞妓も現在十七名しかいなくて、その上あちこちのホテル等へ観光顔見世にあい間をくぐって出張するとか、なかなか多忙とのことであっ

た。そのうち又一人の芸者が入って来たが、他の座敷に出ていたのだから大分酔っていて、得能先生に盛んにからんでいた。午後十二時迄居たが舞妓は約一時間程いでまた次の座敷へ移って行き、芸者が二人残って座敷をとりもっていたが、なかなか上手で三時間があつと言つ間に過ぎてしまった感あり。然しその間食べるものは全部「つまみもの」程度で箸で食べるものは全くなし。本当に芸者の芸を楽しむと言つことであつた。戦前であつたら到底我々の来れる所でなく、これも敗戦のお陰とつまらぬ所で米国に感謝した次第。翌二十七日は祇園を午前様になつて出てからは何処にもある夜の街をうろつき、午前三時頃にホテルに帰つたためか、午前十時頃になつても起きて来ない先生もあり朝食もしないでタクシーに乗り京都見物に出かける。車は先ず漬物屋、八つ橋の聖護院本店、京観世「菓子」の鶴屋吉信、西陣会館に行き西陣織を織っている所を見学してネクタイ、マフラー、財布等を各自買う。買物をしている間タクシーは道路の歩道の一部入って停車しているが、交通違反しているのに少しもとがめられない様だ。之も観光都市で観光客とタクシーの運転手の便利をはかるためか

と感心する。車は北山杉で有名な北山に行き、床柱の作りかけの杉柱を見る。暖冬のため未だ紅葉が綺麗と言うことで高雄山スカイラインに登る。旧き巨木の紅葉の木ばかりの紅葉で全く美しい。広島県北の楓、うるし、等の黄葉とは違い赤一色で、その中にけわしい山に北山杉の緑が点在しており、はるか下には保津川が流れて遊覧船が下つて来ておる景色は、全く雄大な一枚の画である。嵐山渡月橋に下るつもりが、車が多くて帰る新幹線の間にあわなつと言つので、昼食は嵯峨野五台山清涼寺の境内にある「竹仙」で「湯どうぶ」定食を食べる。酒は「般若湯」ビールは麦般若、と言ひ、土鍋で豆腐と湯葉をたいてくれる。寺を出て、うずまさ映画村、広沢の池、苔寺等々の旧所名跡の前を素通りして西国二十番善峰寺に参る。五葉の松では日本一大きいという左右八五十米枝を広げる重要文化財の松を見る。此処から京都市全部が一望に眺められる。次いで清水焼の窯元を見学する。薪で焼くのではなく、電気で一、二〇〇度の熱で焼くので失敗は全くないとのこと。古い焼物と全く同じ様な物も出来るからにせ物もほとんど出来ると言つ。然し良い物は六〇〇万円もするとのこと、現に店には陳列してあつた。京都駅に向う途中は竹藪があり、竹の子料理専門店もあり、竹藪も吉舎地方の様な藪でなく、きれいに整地され肥料もほどこされていた。

去る十一月一日NHK放送局が全国放送で「京都を探る」と題して約一時間色々な場所を放映していたが、我々が一日で素通りした所以外に、まだまだ観る所は沢山あり、日本のルーツを十分に見せてくれたのを見られた先生方も多いと思ひます。うづらうしい毎日の医療生活をしている我々医者にとっては、一年に一回ぐらひは日本のふる里、心のふる里京都を訪れて日本の「わび」「さび」を味わうのも又良き人生ではないでしょうか。



編集 後記

復刊第二号をやつと上稿して皆様にお届けします。もう少し早く出来る予定でしたが、学会の原稿と、吉舎医会の旅行がすむのを待って発刊しましたので、約十日ばかり遅れましたことをお詫びします。

例年より暖い十二月の毎日が続いていますが、来年は我々にとつても色々な意味で寒い年になりそうな気がしています。毎日の新聞を読んでもマスコミに叩かれ続けます。向寒の朝、御健康に御留意の上すこやかに御越冬され、きびしい来年に備えて下さい。

(田中)